

留学体験記

会計研究科2年

48240050 舘 一輝

Jacksonville University について

私は2025年8月から2026年1月にかけてアメリカ合衆国フロリダ州ジャクソンビル市に位置するジャクソンビル大学に交換留学させて頂きました。フロリダ州なので夏は日差しが強く、12月でも半袖で過ごすことができます。所属する大学のTシャツを着て登校する学生が多いのが印象的です。キャンパス内には寮があり日本でいうコンビニ、ファストフード店も多くあります。広大なキャンパスの敷地内で生活が完結することが魅力の1つです。敷地内は24時間セキュリティの方々が常駐されており安全面の心配もありません。授業においては、学生主体のアクティブな発言が強く求められますが、先生から積極的に話を振ってくださるため無理に自分から発言することを意識するというよりは、自然と先生と生徒で会議になるようなイメージです。アメリカの大学院での留学の醍醐味は授業だけでなく寮での共同生活にもあります。アジア人は少数派であり私のルームメイトもアメリカ人2名とベルギー人1名でしたが1週間もすれば自然と仲良くなる環境にあり、そこでの交流は授業で得る知識と同様かけがえのない財産になりました。自分と全く異なるバックグラウンド、思想を持つ同世代の人々と生活を共にすることで、自分でも気づいていなかった自己への理解を深めることが出来たと思います。また大学からの港の夜景、フロリダの美しい海、老若男女問わず現地の方々の人種を超えた親切さなど、これらはきっと私の人生において一生忘れられない貴重な思い出になると思います。

授業について

本プログラムの一番の目的は現地の学生と会計・財務、リーダーシップ理論の授業を履修することでした。研究科で学んだ内容をより実務に近い形で学ぶことが出来ます。どの授業も基本的にエクセルを用いて計算演習などをするため、エクセルが苦手であった自分には非常に有意義で実践的な履修科目になったと思います。最も印象に残っているのは、差額原価収益分析とバリュエーションの両方のクラスを現地の学生と共同で教授をクライアントに見立てて提案発表をしたことです。研究科で学んだテクニカルなスキルのアウトプットに加え、他の学生と英語での議論の中で自分の意見を主張する難しさを痛感しました。

課外活動について

学外活動としては、バスケットボールサークルおよびアジア人ソリティに所属いたしました。米国のサークル文化は日本の大学と同様に開放的であり、個々の志向に合わせた活動選択が可能です。サークルを通じて得た知己は多く、教授や友人から自宅に招かれ、米国特有のハウスパーティーを何度も経験することができました。

また、居住地域は中南米にルーツを持つ住民も多く、街中にはスペイン語の看板が散見されるなど、米国内の多様性を肌で感じる事ができました。寮内での交流に加え、大学主催の親睦会も毎週開催されており、多種多様な学生とコミュニケーションを図る機会には事欠きません。これらの経験のためには自ら能動的に何事も楽しんで過ごす必要があります。

最後に、私にとって初めての海外渡航であったため、当初は高揚感よりも困惑や不安が先行しておりました。また、TOEFL の学習や選考対策、そして VISA 取得ための手続きは困難に感じることも多かったですが、研究科の事務職員の皆様のサポートもあり無事に進めることが出来ました。この場を借りて研究科の留学機会の提供に感謝します。海外留学を考えている人も少なくないと思いますが、留学生活は苦労話の方が圧倒的に多いのは通説です。しかし同世代の同じ職種を志す学生と学ぶことができる機会は今後の人生でそう多くないでしょう。子供の頃からアメリカで学ぶことは私の1つの夢でした。短い間でしたが本プログラムで自分の目で見た事や感じた経験は私の一生の財産になったと思います。この経験を無駄にしないよう次のステージで周りの仲間に貢献できるように邁進します。

